

協同的なあそびと学び研究会

研究主題 「協同的なあそびと学び」
 ～友だちと織りなす「あそび」や「生活」を考えよう～

講 師 兵頭 恵子先生
 (富士見幼稚園主任)

研究経過

| 回 | 期 日 | テーマ及び内容 | 会 場 | 人数 |
|---|-----------|--|---------------------|-----|
| 1 | 5月23日(水) | ・協同的なあそびと学びについての共通理解をする。 | 中原市民館 | 97名 |
| 2 | 6月20日(水) | ・VTRから子どもの興味・感心を探り、子どもの発達について話合う。 江川幼稚園 伊吾田沙織先生の発表 | エポックなかみはら 7F | 95名 |
| 3 | 9月12日(水) | ・VTRから興味・関心の変化をとらえ、特性を探り、協同的なかわりについて話合う。 宮前幼稚園 小野ゆり子先生の発表 | ユニオンビル セミナールーム2F | 95名 |
| 4 | 10月17日(水) | ・VTRにより、子どもの発達の姿と保育のあり方について話合う。 ・さぎぬま幼稚園 上浪 麻衣先生の発表 (8月関東ブロック大会問題提起) ・10年目研修と合同 | エポックなかみはら 7F | 92名 |
| 5 | 11月21日(水) | ・協同的なあそびを組み立てるための保育のアプローチを考える。 | 国際交流センター 1F | 56名 |

◆研究参加園 (39園) ◆

| | | | |
|-------------|----------|-----------|---------|
| 江川幼稚園 | 川崎ふたば幼稚園 | 川崎さくら幼稚園 | 若宮幼稚園 |
| 竹園幼稚園 | ゆりかご幼稚園 | 大師幼稚園 | 梅園幼稚園 |
| 小峰幼稚園 | 鹿島田幼稚園 | サクラノ幼稚園 | 平間幼稚園 |
| 太陽第一幼稚園 | 太陽第二幼稚園 | 宮内幼稚園 | 大楽幼稚園 |
| 洗足学園大学附属幼稚園 | 若竹幼稚園 | 川崎めぐみ幼稚園 | たちばな幼稚園 |
| 津田山幼稚園 | 梶ヶ谷幼稚園 | 川崎たまがわ幼稚園 | 宮前幼稚園 |
| 有馬白百合幼稚園 | 初山幼稚園 | さぎぬま幼稚園 | ひばり幼稚園 |
| 潮見台みどり幼稚園 | 宮崎台幼稚園 | 丸山幼稚園 | 菅幼稚園 |
| 東菅幼稚園 | 寺尾みどり幼稚園 | ルミエール幼稚園 | 柿の実幼稚園 |
| 川崎青葉幼稚園 | こうりんじ幼稚園 | ちよがおか幼稚園 | |

第1回 協同的なあそびと学び

月 日 平成19年5月23日(水)

場 所 中原市民館

講 師 兵藤 恵子先生(富士見幼稚園主任)

テーマ:

「協同的なあそびと学びについての共通理解をする」

俯瞰図番号 C1-I

協同的なあそびと学びとは何か?

共同あそび、集団あそびがなぜ協同的なあそび、学びになったのか?

→中央教育審議会～教育改革をする話し合いの場であり、この中で幼稚園の部、小学校、中学校とそれぞれあり小一プロブレムという小学校1年生の問題点が出てきた。

- 小一プロブレム・話が聞けない
 - ・話し合いができない
 - ・自分自身学ぶ気持ちがない

学校、クラスの中で2人くらいは立ち歩く子がいる。→発達障がいの子の場合もあるが、そうでない子の場合もある。

幼稚園の6歳までは、いろいろな経験、体験を学ぶことから豊かになることが大切。

子どもの興味関心はどこにあるのか?それを保育者が知り、保育を組み立てていく。→子ども同士が学び、自己発揮、葛藤して友だち同士の関わりの中で生きていく。

自分の思いを伝えてもいいんだと思わせる場所を作るのは保育者の役目である。

「年長さんがつくったおばけやしき」というビデオを見て、学ぶ。

○感想を聞く(初めて見た人)

- ・自分の意見を言えてすごいと思った。
- ・自分もしてみたいと思った。
- ・環境に恵まれている。
- ・話し合いや時計を見て進めていた。

(継続の人)

- ・自分の気持ちを言える場所の土台づくりの場所だと感じた。

公立の東京都の幼稚園でいろいろな子がいる中でできるには、何かしかけがある。

- ・小一プロブレムが起きる、起きないは保育者にも責任があるのかもしれない。
- ～ビデオの内容に沿って話をする～

自己主張をして子ども同士がぶつかり合う場所がある。ぶつかり合いながらも受け入れている。

例) A君が作っているものをB君がわざとではないが、ぶつかって壊してしまう。

「なんで壊すんだよ。なんで壊すのかって聞いてるだろ!ごめんねしろよ」

「そういう言い方だと僕、謝りたなくなる」

→相手を受け入れて認めている。

- ・次の日発表会なのに、保育者は焦っていない。
- 生活発表は1日だけど、子どもの活動は1日で終わるものではない。ゆっくりかまえて、明日できなければ明日でなくてもいい。

→子どもと保育者間での信頼関係がある。

日々の中で子どもをよく理解している。

- ・意見を言ってもいいということ。
 - ・意見や考えが違うことがあること、違ってもいいということ。
 - ・一步譲れると相手のことが見えてくる。
 - ・人に譲れる情緒
 - ・妥協する方法を学んでいる。
- ⇒自由であること。

保育者が興味関心を知っていること。

◎ビデオと同じ保育は、できない保育ではない。

- ・自分が行う保育を自分自身で選べること。何でも選べる機会をたくさん与える。
- ・保育者が時々子どもたちの意見の中でまとまらなくなったら統合してあげる。
- ・子どもは楽しいと鼻歌が出てくる。鼻歌がでる保育は理想的。
- ・保育の環境、保育者の姿を見せることは大切。
- ・子どもの頭をゆさぶる、ヒントを与える。

- ・子どもたちの声に保育者がどれだけ耳を傾けているか？
- ・決め方、方法がいろいろあること。
- ・子どもたちは子どもたちなりに考えたり、推理、推測をしている。
- ・保育者自身が保育を楽しんでいる。

◎子どものことをよく知ればこのような保育はできる。このような保育者をしていきましょう。

- ・子どもたちの興味や関心を知ろう。

第2回 協同的なあそびと学び

月 日 平成 19 年 6 月 20 日 (水)

場 所 エポックなかはら

講 師 兵藤 恵子先生 (富士見幼稚園主任)

テーマ：「VTR から子どもの興味・関心を探り、
子どもの発達について話し合う」

俯瞰図番号 C1-II

◎発表者の行事の事例に基づき、ビデオを観ながらそれについて話し合う

年中 3 年、年長 2 年の 5 年目の先生
川崎大師の近く、産業道路や工業地帯にある幼稚園、多摩川付近ということもあり身近に自然を感じられる場所にある。年少 20 名、年中 30 名、年長 35 名、各学年 2 クラス、担任各 1 名。障がいのある子どもも数名在籍。

行事は多いが子どもの意見を取り入れ、行いたいという気持ちを大切にしていっている。

6 月 30 日に行われる「夏祭りの御輿飾り」について話し合ったビデオは 6 月 14 日。年長児 35 名で話し合ったもの。1 回目は 1 対 35 での話し合い、2 回目は 6 名グループで話し合う。その話し合いの様子をビデオを観る。

～ビデオの内容～

①すでに話し合いが進んでいる途中で御輿の飾

りを何にするかクラスで話し合い、子どもたちが発言しているところから始まる。

②保育者は意見をホワイトボードに書き出す。22 個の内容が出て、保育者が同じ項目にある程度まとめてから、各机、6 名グループで何にするか話し合うことを投げかける。

③子どもたちの話し合いを保育者が見守りながら各机をまわる。話し合いをしているグループもあれば、全然違うことをして話し合いにならないグループも出てくる。ジャンケンをして決めるグループもある。

④各グループの意見で案がしぼられる。

～講師より質問～

Q 御輿を作ろうという話は保育者、子どもどちらから？

A 投げかけにとっても困ったが、夏祭りの話を少しずつ話していった。子どもからも御輿がかつげるんだよね～という話が出てきた為、話をした。

Q ビデオの導入は？

A 2、3 回話し合っていた為もっと意見が出ればと思ひ話し合っている状況

Q グループになったのはどのような投げかけ？

A グループで 1 つ作りたいものを決め、作るものは 1 つでなくていいのでいろいろなもの 1 つの御輿に飾ろうと思っている。

Q グループで最終的にいくつにしぼられたか？

A 22 個から 5 個にしぼられた。

～各グループバズを行う～

・感想、子どもたちの表情について、保育者の投げかけについて、子どもたちの話し合いで育つものは何か？

◎各グループの代表者 4 名が前に出て、話し合った内容について発表し、意見をする

Q 導入の部分でどのように話をしたのか？

Q 障がいのある子に対する対応は？

Q 5個の意見をどのように1つにしたのか？

A 御輿は1つだが、飾りは1つにしぼっていない。星、おともだち、花、花火などを飾り、“これは僕の意見”と主張できるようなものにして自信がもてるようにした。

統合保育については言葉の障がいの子なので、話し合いでは聞いて参加している。又もうひとりの子はとても積極的に参加できた。導入部分は、会話の中に取り入れたり去年の話をしてイメージしやすいようにした。

- ・導入について、どうしているか？
子どもの意見をたくさん引き出してあげられるような言葉掛け、又意見を発言した際に、どうしてそう考えたのか？という部分も追求してもよいのではないか？

活動（計画）導入・・・子どもは今、何を考えているのか？リサーチする必要がある。

今の子どもの発達の仕方を考える必要がある。

Q どのくらいの時間話し合えると思ったのか？

A 実際話し合った時間は25分間だった。話し合った結果、夏祭りに対する子どもたちの思いが強いことが分かった。

Q グループ話し合いで多数決でなく、話し合ったのにはどのようなねらいがあったのか？

A いろいろな子に多くの意見を発言してほしいという願いと、多くの意見を多数決で決めるのはまとまらないと思い、1対35より少人数のいつも話し合っている様子なら話もまとまり、思いも強くなると思った。

- ・自分のクラスの発達状況を保育者は理解し、話し合いでたくさんの意見があることを知りたいということがねらい。

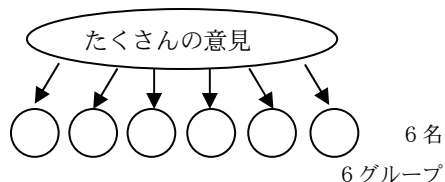
Q 子どもはどうだったか？

A 6名の話し合いは良かった。机なしで座って話すなど、態勢も違ってよい。少人数だと

話しやすく、自由に話せる。

A クラスで1つのもを作るのにグループで話し合い、盛り上がっていた。

- ・子どもは伸び伸びと話し合い、本音で話せる人数であること、役割が出てきていた。
- 6名ぐらい→暗黙の領域の役割意識
- 子どもは1つのもを作ることを理解していたのか？



↓
各グループ1つ決める（異なる）

↓
クラスで1つのもを作ることを理解

- ・保育の構成の仕方は子どもが納得できるものだったのか？よかったのか？

グループで5個にしぼられたが、1つにしないでまとめた。花の中で子どもがあそんでいるイメージに子どもから出た星や花火を入れて子どもに伝えていった。

- ・個々のイメージはバラバラであること
- ↓
- ・共通の認識ができるよう、絵や実物を見せてイメージを具体化していく必要がある。例）設計図など。これは保育者の役割である。

Q 子どもの育ったものとは？

- A 話をすることで相手の気持ちに気づく、我慢すること、ゆずること、意見が言えること。
- ・物にはいろいろな決め方がある。
ジャンケン、リーダーシップ決め、背の順など・・・決め方は1つでないことが大切！

★話し合うことでいろいろなことが育っていく。
子どもたちが理解できたかについてはもう少し挑戦する必要がある。

◎話し合いで、たくさんの意見があること、役割が自然にできること、決め方、方法がたくさんあってゆずり合うこと、決めるには、エネルギーが必要であること、多くのことに気づくことができた。

第3回 協同的なあそびと学び

月 日 平成19年9月12日(水)

場 所 ユニオンビル セミナールーム2F

講 師 兵藤 恵子先生(富士見幼稚園主任)

テーマ:「興味・関心の変化より

発達の特徴を探る」

俯瞰図番号 C1-III

◎A 幼稚園の保育のVTRを基にみんなで話し合う。

～内容～

・年長組、31名(男17名、女14名)

毎年、年長児が田んぼでお米づくりを行っており、お米がすずめにたべられてしまったことに対する話し合い(一斉)と、次の日以降の子どもの様子と関わり(自由時間)についてのVTRを見る。

～お米の活動の今までの経緯～

・栽培のねらい

・成長の過程に興味をもち、その過程での出来事に対して主体的に参加する。

・自分たちで育てることで責任感をもつ。

・愛情をもって植物を育てる経験をする。

・手間暇かけて育てることで食べ物の大切さに気づく。

・収穫の喜びをクラスの仲間と共感する。

・5月10日～田んぼに入り、ぐちゃぐちゃにする。

・5月15日～田植えを一人ひとり行う。

・5月～6月中旬～田んぼに水を入れる。

・6月下旬～夏休み～子ども同士で考え、田んぼと水道の間に竹のといを渡して水やり。

・8月中～水やり、観察日記

～すずめにお米を食べられ、保育者がネットをつける。

・9月3日～子どもたちはすずめに食べられたことを知り、対策を考える。

～お家でアイデアを聞くよう、伝える。

～VTR～

・9月4日～一斉でお米を守るために友だちとアイデアを出し合い、話し合う。

・話し合いの結果、グループによって気持ちに差が見られ、「お米を守る」という切実感があれば、主体的に行動すると考え、興味をもった子が自由に参加できるよう、自由時間での活動に変更。

・9月5日～話し合いで出た“キラキラしたものをすずめよけに作る”の材料を3、4人がもってくる。

・すずめ対策ネットに穴が見つかり、すずめが入らないよう、穴をふさぐ活動。

・9月6日～引き続き、穴をふさぐ活動。

・9月10日～“すずめのえさをしかけてお米を守る”という考えの子がお米とボールをもってきて、しかけをする。

グループバズを行う、話し合うポイント

◎活動の中で何が協同的なあそびであり、学びなのか?

◎子どもの興味、関心はどこにあったのか?

◎保育者のなげかけ、保育の組み立て、援助はどうあったらいいのか?

グループの代表者4名が前へ出て発表し、話し合う。

～発表者の反省～

・保育者自身の勝手なあせりが言葉に出ていると感じた。

・主体的、考えながらと言っているつもりが、

保育者が子どもに押しつける保育になっていた。

- Q 保育を人に見られてどうだったか？
嫌な気持ち→これが実感だが、本当は誰に見られても平気と思える保育だとよい。

～VTRを見て、代表者の感想～

- ・3歳児の先生
子どもに投げかけている保育で、時間もゆとりも十分にあると感じた。

- ・5歳児の先生
話し合いはやはり難しいと感じているが、お米づくりに興味ある子だけで話し合う姿が見られ、その場に入れない子も方法は難しいが、どうか参加できればと思った。

- Q 子どもの興味・関心はどこにあったのか？
・お米の成長、すずめに食べられてしまい守るという子ども、穴をふさぐのが楽しい、お家の方とアイデアを話し合うこと。

- Q 本当にお米を守ることに興味、関心があったのか？
・子どもの意見として“すずめにお米を食べられた。だからどうしたの？”という気持ちがあるのではないかと？

- Q 興味、関心のないことに興味を向けるには、どんな援助が必要？
・子どもに興味、関心をもってもらう援助が必要ではないか？→もってもらう～してもらうという言い方は×。
主体が保育者になってしまう為。

- ・保育者が言うことによってつながるタイミングや状況、判断が大切！？

- A 保育者がつぶやきをたくさん言うこと。
例) お米がたくさん実っているから触ってみよう！
子どもは触って感触を感じ、硬い所と柔らかい所があるよ～とすぐ言う。

- ・その場で5、6人集めてお米をむいてみる。
両方比べて“なんでこっちはなくなったんだろう？”と投げかける。
- ・心がワクワクするような投げかけ、つぶやきが大事！その為には、日ごろから子どもをリサーチすることが必要。

- ◎子どもがどうでてくるか、を考え、それを楽しみながら保育をすることが組み立てであり、投げかけである。

- Q 子どもが話したいと思う時は？
A 楽しいこと、嬉しいことを話して、聞いてくれる環境があったことによって、年中で自己主張し、話す。そして聞いてくれることで、年長になって話し合いができるようになる。
・保育者はたくさん聞いてあげること！
・子どもの心、発達は今、どこにあるんだろうということを常にリサーチしながら、職員会議で話し合うことが大切。

- Q 最初の話し合いはどうなったのか？
A 1つにしぼって決めたグループ、意見がまとまらなかったグループもあったが、出た物を書き出し貼り出し、その後、自由活動に切り替えた。

- Q なぜ切り替えたのか？
A 助言があったから切り替えられた。
→職員間の話し合いが大事。

- Q 保育を切り替えられるか？
・5歳児の先生
すぐ他の先生に相談する。

- ◎保育は見極めが必要。
・責める保育だけでなく、引く保育が大切！！

- Q 何が協同的だったのか？
A VTRからは協同的なことは、分からなかった。
A 想像することがあそび、自分以外の意見を聞いて考えることが学びなのではないか？

- ・みんなの考えを共通にもつ
- ・みんなが力を合わせる

} 協同的なこと

◎仲間と共に共有すること一定義

- ★考えの共有～友だち、自分の考えを互いに理解する
- ★イメージの共有～ごっこあそびの役割、劇ごっこ
- ★活動の共有～あそびを実現する場がある、働きがあること

◎友だちのかしこさ、知恵も共有できること。
これも協同的な定義である。

第4回 協同的なあそびと学び

(10年研修会と合同)

月 日 平成19年10月17日(水)

場 所 エポックなかはら(7F)

講 師 兵藤 恵子先生(富士見幼稚園主任)

テーマ:「興味・関心の変化より、
発達の特性を探る」

俯瞰図番号 C3-1B

今回はさぎぬま幼稚園教諭の発表、資料やスクリーンで実際の保育中の子どもたちの様子のビデオを見る。

◎主題「子どもの遊びの中から“協同的なあそびと学び”を考える」

◎問題提起の趣旨、ポイント

- ・子どもたちの興味、関心をどのように保育に取り入れていくか。
- ・日常の保育の中で、子どもたちが人間関係を作っていく為にどんなことが必要か。
- ・協同的なあそびと学びを得る保育とは何か。
- ・年長の育ちとは何か。

これ等を念頭に考えていった。

～ビデオの内容～

- ①5月2日の絵の具あそびから、ジュース作りが始まる。
- ②自由あそびの中でジュースと自動販売機を作る子が現れ、ジュース屋さんごっこが広がる。
- ③自動販売機を新たに作ることになり、実際に見に行き、観察をしてどのような自動販売機にしようか話し合いを行う。
- ④いくつかグループに分かれ自動販売機、ジュース、チケット作りなどを進める。
- ⑤自動販売機の中身がどのようになっているか興味をもち、実際に業者の方に見せて頂く。
- ⑥作った自動販売機で、あそびを友だちと共に楽しむ。

◎保育者の想い、保育のねらいとして

- ・子どもたちの興味、関心を探り、保育の中で生かしたい。
- ・一人ひとりがのびのびと意欲的に活動し、クラスの中で自分を発揮して欲しい。
- ・子ども同士、又子どもたちと保育者と共に考える時間を大切に、子どもたちの探求心を深めていきたい。
- ・友だちと意見やアイデアを出し合い、相談しながら協同的にあそぶ中で、共にあそぶことの充実感や学びを得てほしい。

～会場の感想、質問～

- ・ジュース作りから自動販売機につながり、子どもたちの意見が出やすい雰囲気がよく、年長ならではのと感じた。

Q 話し合いの中で子どもたちがすごく意見をしていたが、今までの経験は？

A 年長になって話し合う場は初めてだった為、どうなるかという不安もあった。

Q クラスでの横や縦のつながりはあったのか？

A たらこパラダイスであそんでいる際は、お客さんに来てほしいという気持ちがあり、他のクラスと関わっていたが、他のクラスと協同とまではいかなかった。又、クラス内での深

まりが強くなればと思っていた。

Q たくさんの意見が出た場合、どのようにしたらいいかと心掛けているか？

A 子どもと会話することが大事と思い、朝のつぶやきの言葉だったり、一人の子が話したことを全体に話してみると進めることが多かった。又全体の話し合いでは、保育者は聞き役で声を掛けて援助する程度で子どもたち同士で話し合っていた。

◎まとめとして（子どもの育ち）

- ・探求心が強くなり、関心、疑問をもつことにより、知恵やアイデアが生まれた。
- ・一人ひとりの個性が発揮され、役割が生まれた。話し合いの中で自分と違った考え方を知り葛藤や賛同があった。
- ・ひとつのことに対し、相談を繰り返す中で発言が活発になり、意見を主張する姿が見られた。
- ・友だちと一緒にあそぶ楽しさ、充実感を得た。

～講師より～

- ・自分たちの保育を考えさせられるとてもよいものであり、よい視点、まとめだった。
- ・子どもたちがこれだけ話し合いができるのは、耳を傾けてくれる保育者、聞いてくれる環境があるということ。子どもたちの考え、意見をもっともっと聞いてあげること！いつでも聞ける保育者であること、そして子どもの意見を聞きながら、保育者はねらいをどこにもつか？
- ・ビデオの中で、子どもが知りたいことは、ボタンを押すと出てくるというしくみだった。
- ・自分の保育を人に話して相談する大切さがあると、よりよい保育だった。
- ・子どもの興味・関心が物にある場合は分かりやすく、年長くらいになると、どうなっているのか？という“しくみ”に興味をもつ。

例) 時計

3才～形で知る興味、関心

4才～生活と結びつく、何時になると何のテレビが始まるよ、など

5才～時計は何で動いているのだろう？と、見えない所に興味、関心をもつ

→分解してみるとおもしろい

- ・目に見えないものに働きがあるというしくみ
- ・人の思い、心があることを伝える

この年長の時期、本物とごっこあそび（うそ）を行き来して楽しむ。

同時に価値観がつく時期である。イメージの世界→現実の世界へ

生き物を殺してはいけないと生死が分かるとき

友だちとの考えの違いに興味、関心があるから、話し合いになる。違いに気づく→刺激になる、人のかしこさに気づくことでより豊かにしていく。

子どものあそぶ姿から、子どもの気持ち、心、感情だけでなく、知性も読みとる。聞き上手になること。

子どもの考えからねらいにつながる！

◎考え方、イメージ、活動、達成感

の共有、共通

人を知りながら、自分を発揮する

◎保育者はプロデューサーである。

子どもの姿から脚本し、企画、演出する。

主役、主演は、あくまで子どもたちであること。

第5回 協同的なあそびと学び

月 日 平成19年11月21日(水)

場 所 国際交流センター保育1F

講 師 兵藤 恵子先生(富士見幼稚園主任)

テーマ:考える子ども、考える保育者

「異年齢児による劇あそび会」

俯瞰図番号 C3-II

◎協同的なあそびと学びについて、何が協同的であるか？

- ①人と人とが関わる力→自分を出しながら、人と折り合っていくこと。
 - ②人と共有すること→考え、場、活動、感情
 - ③達成感、成就感をもつ→希望、意欲
- これらについて、今まで学んできた。

◎兵頭先生の幼稚園のVTRを観る

- ・保育形態、異年齢保育
- 年長16名・年中20名・年少22名・保育者3名

★その1 お話「なだぎたんけんたい」のイメージを膨らませる

- ①1日目、絵本を読み、イメージを話し合う。
イメージをもとに基地を作る
- ②2日目、素話を聞き、イメージを広げる。好きな役を選び、劇ごっこをする。

★その2 仲間と一緒に表現し劇を創っていく。

- ③3日目、年長児のみ、好きな役で劇ごっこ
- ④4日目、年長児で役決め
- ⑤職員会議で子どもの姿について話し合う。
- ⑥5日目、年長児の劇を年中少児が観る。一緒に劇ごっこをして、年中少児で役決め。
- ⑦6日目、決めた役で劇あそびをする。

★その3 仲間と劇あそびに必要な物を考え、作る。

- ⑧7日目、お面づくり
- ⑨8日目、9日目、舞台上で劇あそび
- ⑩10日目、背景作りの話し合い
- ⑪11日目、背景をつけて劇あそび

★その4 創った劇あそびを表現し、見てもら

う。

- ⑫12日目、子ども同士、見合う劇あそび会
- ⑬13日目、保護者が観る劇あそび会

グループバズをして、感想、何が育っているのかを話し合う。

●年中グループ

- ・壁面づくりから描いてイメージを共有すると、役割分担、表現する力がすごく育っている。子どもたちは表現することで自己発揮している。異年齢で行うことで、学年ならではこのことができた。
- ・本からの素材、意見を主張することで、コミュニケーションの能力が高まっている。異年齢で、思いやりの気持ちが育ち、年長の姿を見ることで来年へとまたつながっている。

●年長グループ

- ・異年齢では大変だったのではないかな？
- ・役決めていろいろな役を経験することでゆずり合うことができるようになる。
- ・子どもたちが伸び伸びして子どもたち主体の劇あそびで無理がなかった。
- ・年長が年中少児に与える影響力の力
- ・素話についてどうしているのか
- ・本のストーリー 劇の流れについて
- ・子どもたちが言いたいことを言える環境、自分で選択する力、イメージしたいことを形に表現できる力が育つのではないかな。
- ・練習ではなくあそびの中で行うこと。

素話について・・・日ごろから話している。聞いて想像できる場であり、聞けるようになる。この場合は、本のストーリーをそのまま読んだ質問形式にして、ホールなどで行っている。

◎まとめ

子どもと考えを共有すること、保育者の共通イメージ
保育者の思い通りに行くことはよくない。子ども

もの声に耳を傾け、ことばを拾う。優先順位を考えながら、主体は子どもであること。

- ・計画は綿密に！保育は大胆に！！

- ・保育者に必要なこと

優しさ、強さの中に自分の意見、人の思いを聞くこと、柔軟さ、臨機応変、クリエイティブの創造性、プラス思考、NO と言える毅然さ。

- ・保育者の感性→適切さ、上品さ、敏感さ